
牡丹雪

森田 マオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

牡丹雪

【ZPDF】

Z0531M

【作者名】

森田 マオ

【あらすじ】

病室で難病に苦しむ君に私は精一杯看病する。

ちらちらと白い牡丹が天から降る。

ああ、天よどうしてか貴方は救わん。

病院の一室に難病に掛り今尚、苦しみを我が眼まなに見せてくれる

気配がない者よ。どうして、君は氣丈なのか。

「何が必要なもののは要らないかな」

万が一、君が言葉を発するのなら、私は何でもいたします。

「オニギリを一つ頂けませんか」

ああ、天よどうしてか貴方は救わん。

私はなりふり構わず、君が私のために、死を覚悟して発したその言葉。　それに必死に応えるために、私は心地よい風のように外に出た。

白い牡丹が降りしきる天への贈り物に今は感涙の情を忘れて、私は惨めにも手を真っ赤にさせながら綺麗な白を掬つたのだ。

「はい。すまないが、二つの事が邪魔をし、これになつてしまつんだ」

「すみません。そして、ありがとうございます」

君は一滴の雪溶け水を零し、無理をした。

口の周りをチアノーゼ色に染めあげながら、無理をしたのだ。

「こんな私の為だけに。なんとも健気な君よ。

ああ、天よどうしてか貴方は救わん。

君の隣に申し訳なく私が置いた不格好なオニギリは、徐々に徐々に溶けて地面に潜るのだった。

ああ、天はどうしてか貴方はドチラモ救わん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0531m/>

牡丹雪

2011年1月25日03時25分発行